

科目名	幼児理解				
担当者氏名	森 七恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《授業の概要》

大人がどう理解するかによって、子どもたちは様々な姿を見せてくれます。その中で、子どもを「深く」理解して関わる保育・教育とは、どのようなものか。具体的な事例と、みなさん自身の体験を通して考えます。大切なのは、自分の子ども観を知り、それをよりよい理解へと変化させていくことです。自分の「子ども」体験をじっくりふり返り、別の子ども理解に触れることで、新たな子どもの姿を発見する時間にご協力ください。

《授業の到達目標》

- 1) 自分の子ども観を知り、言葉で伝えることができる。
- 2) 子ども独自の世界を理解し、新たな子どもの姿を発見するセンスを身につける。
- 3) 異なる子ども理解に触れることで、自分の子ども理解を変化させていくことができる。

《成績評価の方法》

- 1) 小レポート 10%
- 2) 事例発表および事例レポート 30%
- 3) 期末テスト 60%

《テキスト》

テキストは使用せず、授業プリントを配布する。

《参考図書》

- ・森上史朗・浜口順子編『幼児理解と保育援助』ミネルヴァ書房、2003年。
- ・矢野智司『幼児理解の現象学—メディアが開く子どもの生命世界』萌文書林、2014年。

《授業時間外学習》

- ・授業プリントの復習、事例ノートのふり返り
- ・小レポートの作成、事例発表の準備
- ・自分の幼少期の経験や、大人になってからの子どもとの関わりについて、よく思い出しておくこと。

《備考（教員経験の有無）》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	幼児理解とは？	(オリエンテーション) ・自分の子ども観を知る
2	子どもを見る目を育てること	・保育者の「育ち」を考える
3	子どものコスモロジー	・子どもが生きている独自の世界（コスモロジー）を知る
4	子どもにとっての「おとな」	・子どもからみて「おとな」とは、どのような存在か
5	子どもの発達	・自分の幼少期の体験をふまえて、子どもの発達を理解する 【小レポート提出】
6	子どものあるがままを認める	・「共感的理解」とは？
7	子どもの成長を支える	・子どもと大人の「違いを引き受ける」保育・教育とは？
8	子どもの育ちと子育て	・子どもが育つ環境について、家庭を含めて総合的に理解する
9	子ども集団の理解	・子ども集団（子どもたち）の成長を理解する
10	子どもと大人相互のケア	・人間のライフサイクル全体から、子どもと大人相互のケアについて考える
11	「子どものため」とはどのようなことか？	(中間まとめ) これまで学んだ子ども理解の視点をふり返り、「子どものため」の保育・教育とはどのようなことを考える
12	子ども理解の実践①	(事例の発表・検討) 子どもと関わった経験について発表し、議論する 【事例レポート提出】
13	子ども理解の実践②	(事例の発表・検討) 子どもと関わった経験について発表し、議論する 【事例レポート提出】
14	子ども理解を深めること	(事例の記述) 子どもと関わった経験について文章で記述し、子ども理解を深める
15	子ども理解の変化をふり返る	(フィードバック) (全体のまとめ) 保育・教育実践に向けて、よりよい子ども理解とは何か